

阿弥陀岳のバリエーションルート、南稜～中央稜 感想

2018年10月28日

山行記録者：西尾

阿弥陀岳のバリエーションルート、南稜～中央稜に行ってきました。深夜1時発、4時過ぎに舟山十字路に車を停めてご飯食べたり用意したりしてヘッドつけて5:15出発。寒くてテンションが上がらなさすぎたが、歩いてるうちにあったかくなっていく。林道に入り、渡渉箇所があるのだが、台風の影響だろうか、崩れまくり。穏やかな流れと水量からは想像もつかないほどの崩れっぷり。台風の時どんなんだったんだろか。。。そっからは林道歩き。今回地図を用意して頂いたの、なるべく地図読みして進む。山と高原地図には堰が載ってないのかー。地図読みするのに地図を用意するのがいつも大変だなんて思う。地図を片手に歩いていく。旭小屋は最早廃屋のよう…旭小屋付近は磁場がおかしいらしく、奥から登って行ったのに、手前から登ってる記録になってしまっている。みんなそうなっちゃうみたい。今回地図読みにもプラスしてもう一つ課題があって、それは汗をかかないこと！冬山、雪山に向けて汗をかかないように！との課題を授かる。いつも汗だくになりながら登っているが、雪山ではそれは冷えに直結するので汗をかいてはいけないとのこと。なのでゆっくりペース。樹林帯をゆっくりと、ひたすら登る。立場岳までは意外と遠いなあ、木々の間から見えるのが阿弥陀岳かしらん？とか思いながら樹林帯を粛々と歩く。朝なので寒い。2℃立場岳までくるとやっと登りがなくなり、ハケ岳って感じの苔むした樹林帯を朝日が差す中歩く。公共交通機関日帰りだと味わえない朝の清々しい空気の中の登山。

マイカーの特権なんだね…それでも私は車の運転はしません！無理なものは無理。立場岳を通過すると青ナギにでる。

ここで阿弥陀岳と、これから歩く道とご対面。テント張る時はここらへんで張るんだよ、と説明してもらおう。2張が限度かな？霜柱ザクザクの青ナギを通過。無名峰がどこかよくわからないまま通過。P1,2もなんかあっさり通過してしまって記憶にない。よろしくない。

ここら辺から富士山見えたり、権現岳、赤岳が見えるようになる。

最近写真を撮らなさすぎて記憶にないことが多い。何のための記録か。アホな自分が嫌になる。ペースが落ちたとて、写真は撮るべきだな。

P3に到着。

今回は直登するそうです。前日に山行計画書を見直した時に、P3は直登する。の一文に気付く。人の記録を色々見てたけど、みんな巻いてたが…と思いながら、登れるなら登るのだろうか、と覚悟を決める。

パートナーさんがダブルロープの用意をしている間に、岩溝(ガリー)を見てきたら？と言ってもらったので、せっかくなので見に行く。P3を巻く場合はガリーを登る。

ただ、取り付くまでが、びよびよのワイヤーしかなくこわい。落ちたらさようならコース。ロープで登るより怖いのだが？正直ここは登りたくないな。空身だったので取り付けてみてから、もどる。

ここも写真をとっていない。まったく…P3は風の通り道らしく、寒い。

前回の那須岳で凍えた経験から学び、今回はスパッツを履き、メリノウールのインナーと、薄手のパーカー、フリースと薄手のジャケットを着て居たからまだマシだった。だけど登りの距離が長かったので下でビレイしたり控えている時間が長く、結局震える。飛んでいく鼻汁。見上げる為に岩陰から出している顔がさむい…そして距離があるのと、風が強いので声が通らない。なんとか登り始める。支点は自然岩か残置。回収しながら登る。岩はしっかりしていて、手かけ足かけも豊富で迷うことはないが、長いし高度感があるので途中「なんでこんなところに登っているんだ！

高いし怖いしなんでバリエーションなんてきちゃったんだよ！！」と怖さで自分に怒る。怒りに任せて登る。難しいところはなかった。途中、下に5人のパーティが控えてるのを認めただが、全然上がってこない。パートナーさんは、彼らが青ナギ辺りにいるのから把握してたそう。ロープを捌いたりギアの片付けしてても全然上がってこない。結局山頂についてゆっくりしてたのに彼らの姿は見なかった…どこに消えたんだろうか。戻ったわけでもなさそうだったのに…P3を越えて、後は山頂を目指すのみ。が、一ヶ所やだなあとと思うところがあったなあ。正直ロープ欲しかったけど、めんどくさかったのでそのまま登ってしまった。私が先行してたしね。

P4は巻いて、サクッと山頂へ！11:00着登りに5時間45分。随分ゆっくりだったからそんなもんかなあガリーの方から行く方が早かったかしらんけど、絶対怖かったろうな、と思う。山頂は風がほとんどなく穏やかで、おにぎりとパンを食べる。のんびりする。45分も山頂でのんびりしてしまったようだ…びっくり11:45下山開始西の肩から中央稜に入る。

ガしてるのでメットは被ったまま下る。そうするとまた八ヶ岳感のある樹林帯に入る。途中は踏み跡も明瞭、綺麗で気持ちいい樹林帯で、何故ここがバリエーションなんだろう？と思うほどいい道だった。そこから先は四区って書いてあるペンキ頼りになったりするけども。

んで沢に出るとまた台風の影響で道が…草が寝てるから、ここも水が流れたんだなあとか言いながら沢沿いを進む。道も流された模様。

沢沿いを歩いていけば間違いない、との事で沢から離れぬように進む。青タグ付きの青リボンが出てくるが、堰でドン詰まる。堰を越えたところにケルンが積んであるので、通れるらしい。

戻って巻くのも面倒だしなあ…という事で、堰登れるかなー？と思って足をかけたら意外とすんなり登れたので、堰の上に登る。脇からすんなりおりれ、ケルンまで辿りつけた～というかここは地図に記載のない堰だったようで、林道終点だったようです。そして写真はない。後は長い林道歩き。紅葉が綺麗。唐松が落葉していた。

以上